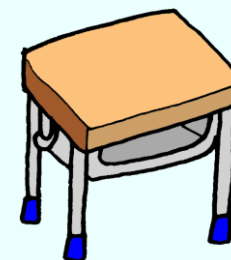




大 沢 野 地 域



市立小・中学校の
将来のあり方について

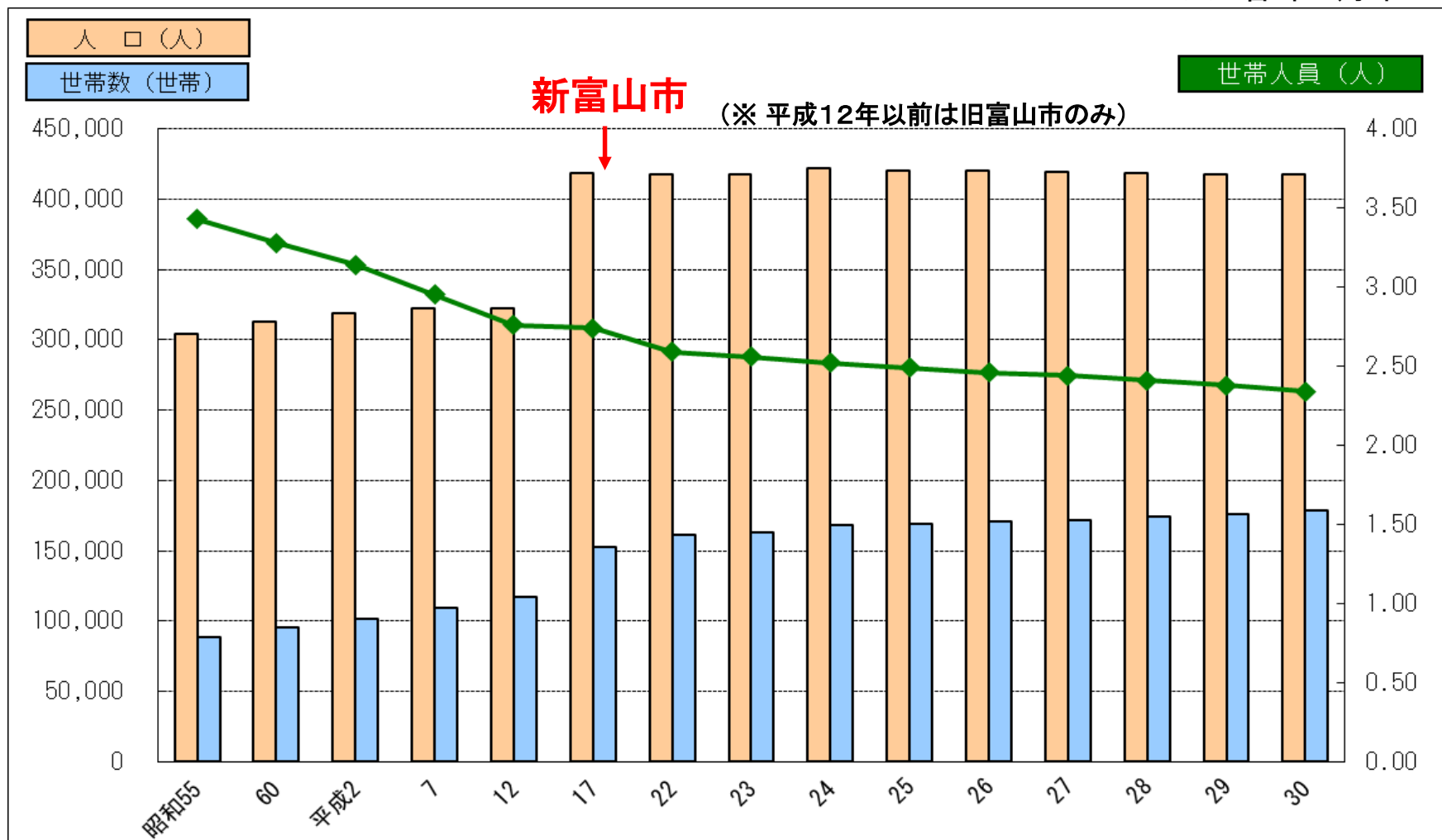


富山市教育委員会

1富山市全体の状況

(1)人口の推移

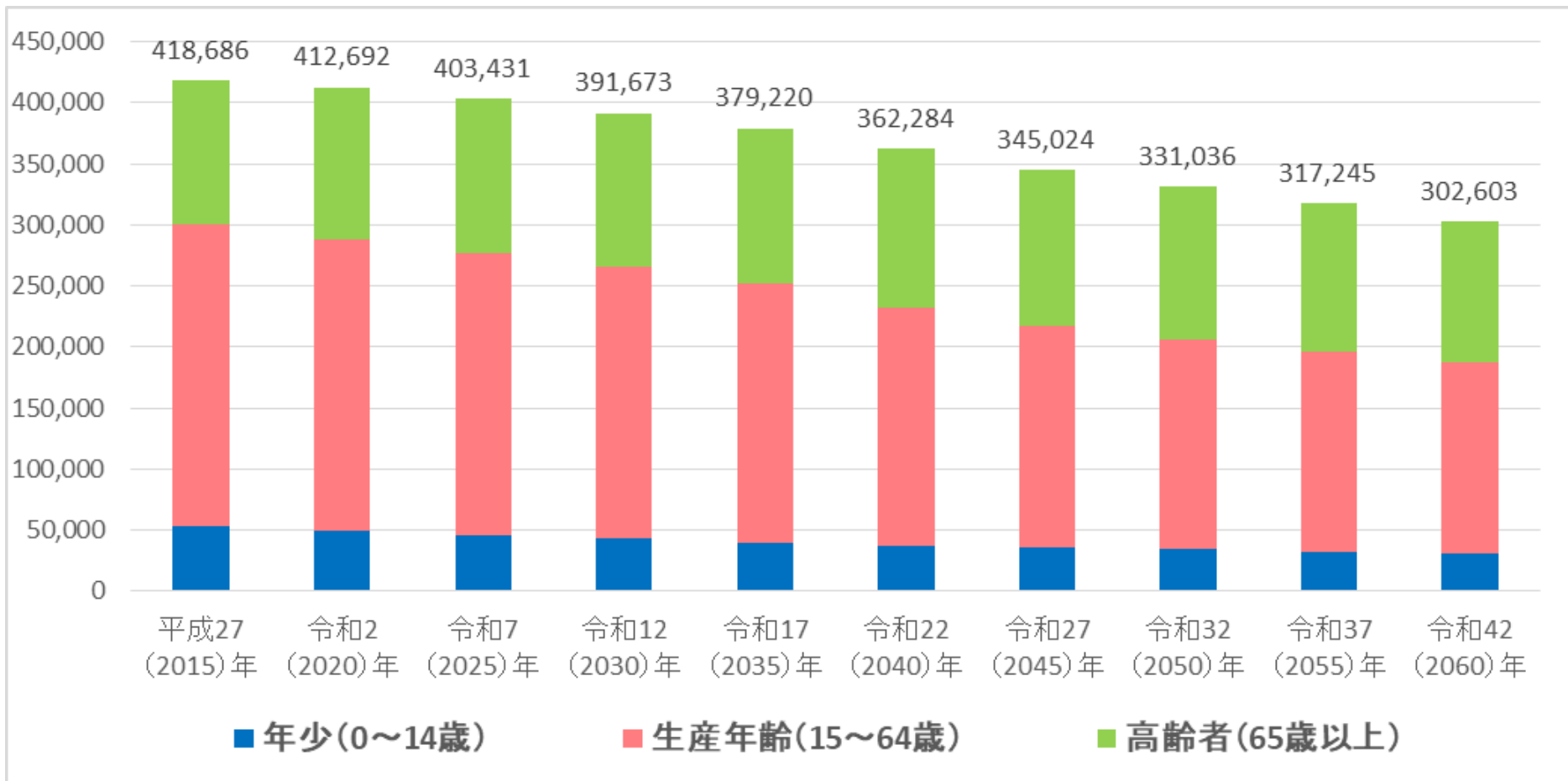
※ 各年9月末



1 富山市全体の状況

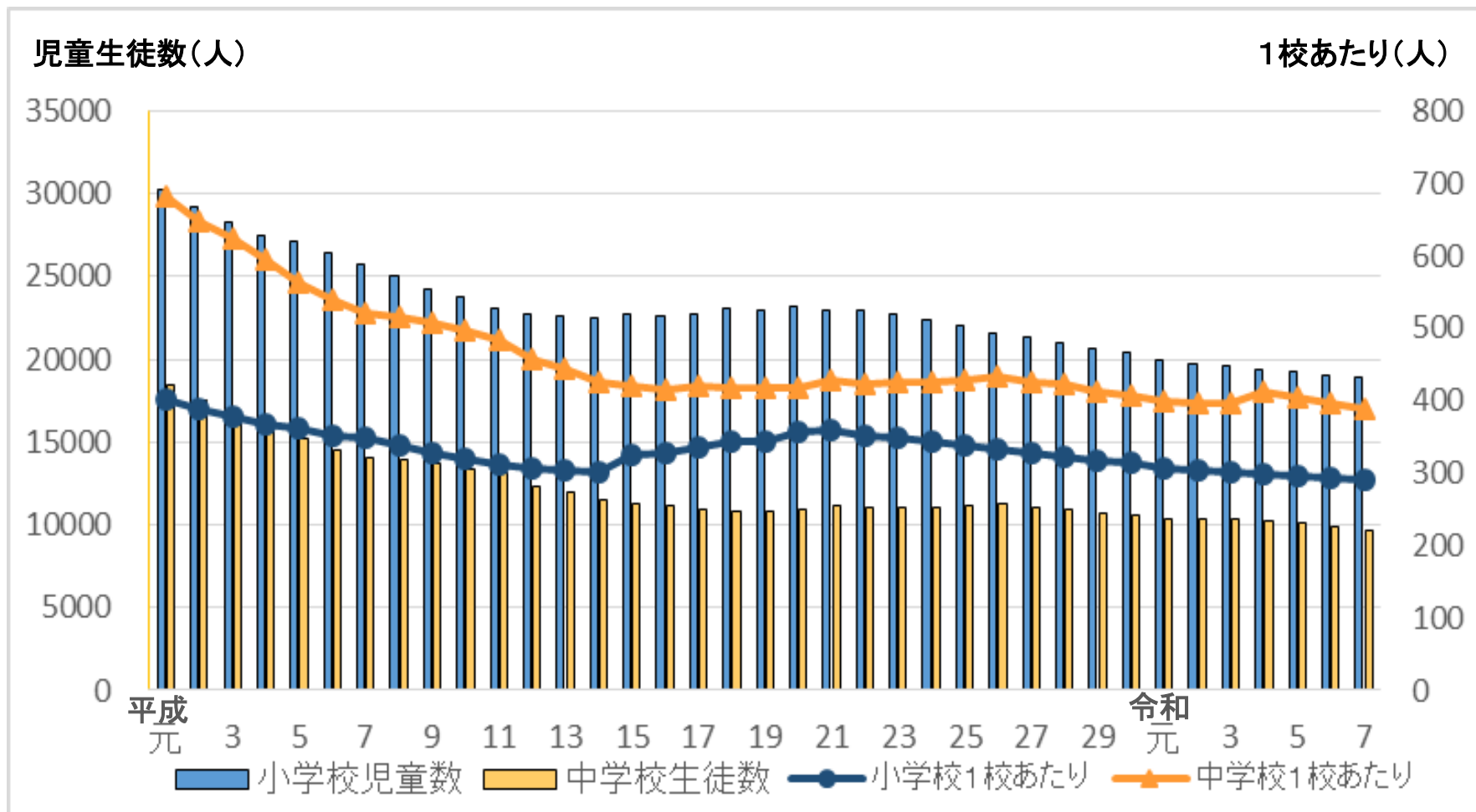
(1) 人口の推移

人口(人)



1 富山市全体の状況

(2) 市立小・中学校の児童生徒数の推移



1 富山市全体の状況

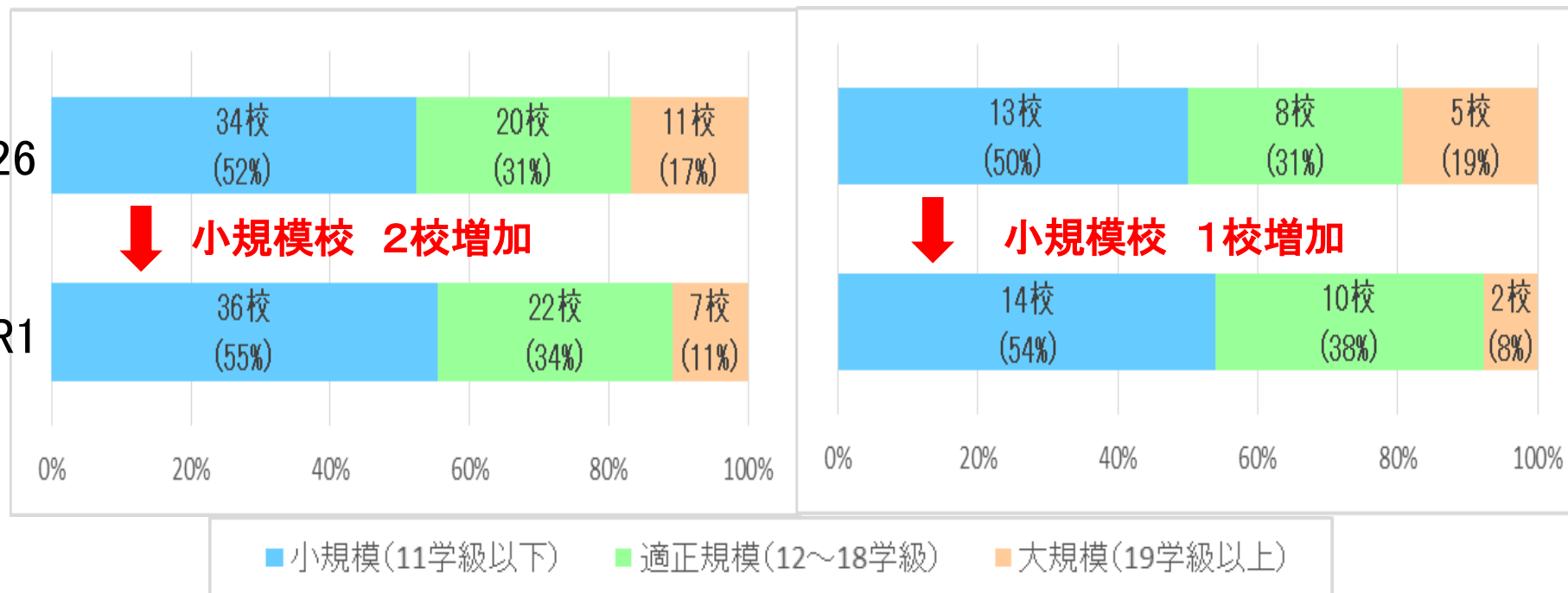
(3) 市立小・中学校の学校規模

標準（適正規模）：1校あたり12～18学級

(※学校教育法施行規則)

小学校

中学校



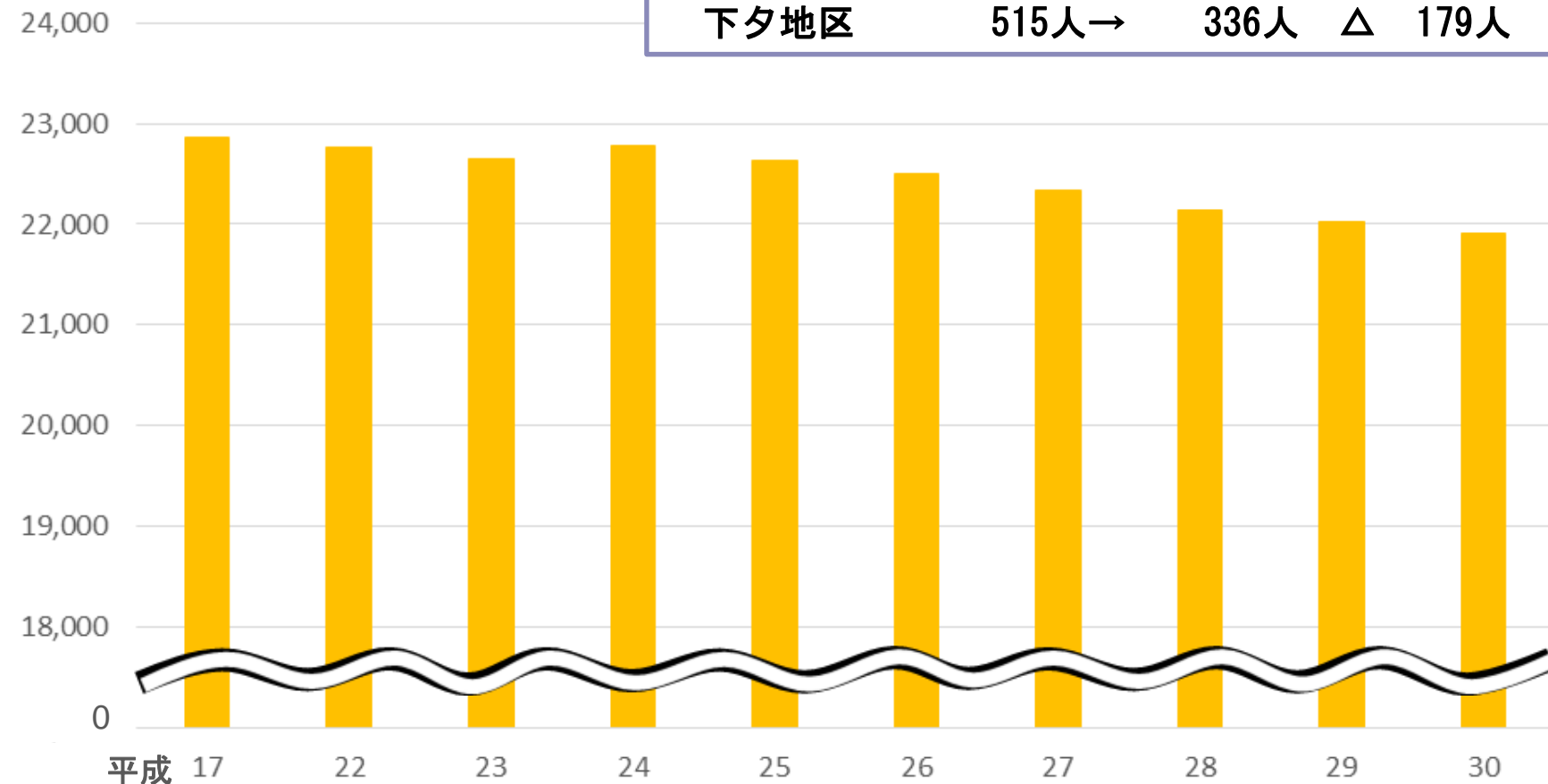
市立小・中学校の5割以上が小規模校

2大沢野地域の状況

(1) 人口の推移

	H17	H30	変化
大沢野地区	12,844人	11,822人	△1,022人
小羽地区	365人	272人	△ 93人
大久保地区	6,713人	7,362人	+ 649人
船峯地区	2,423人	2,121人	△ 302人
下夕地区	515人	336人	△ 179人

人口(人)

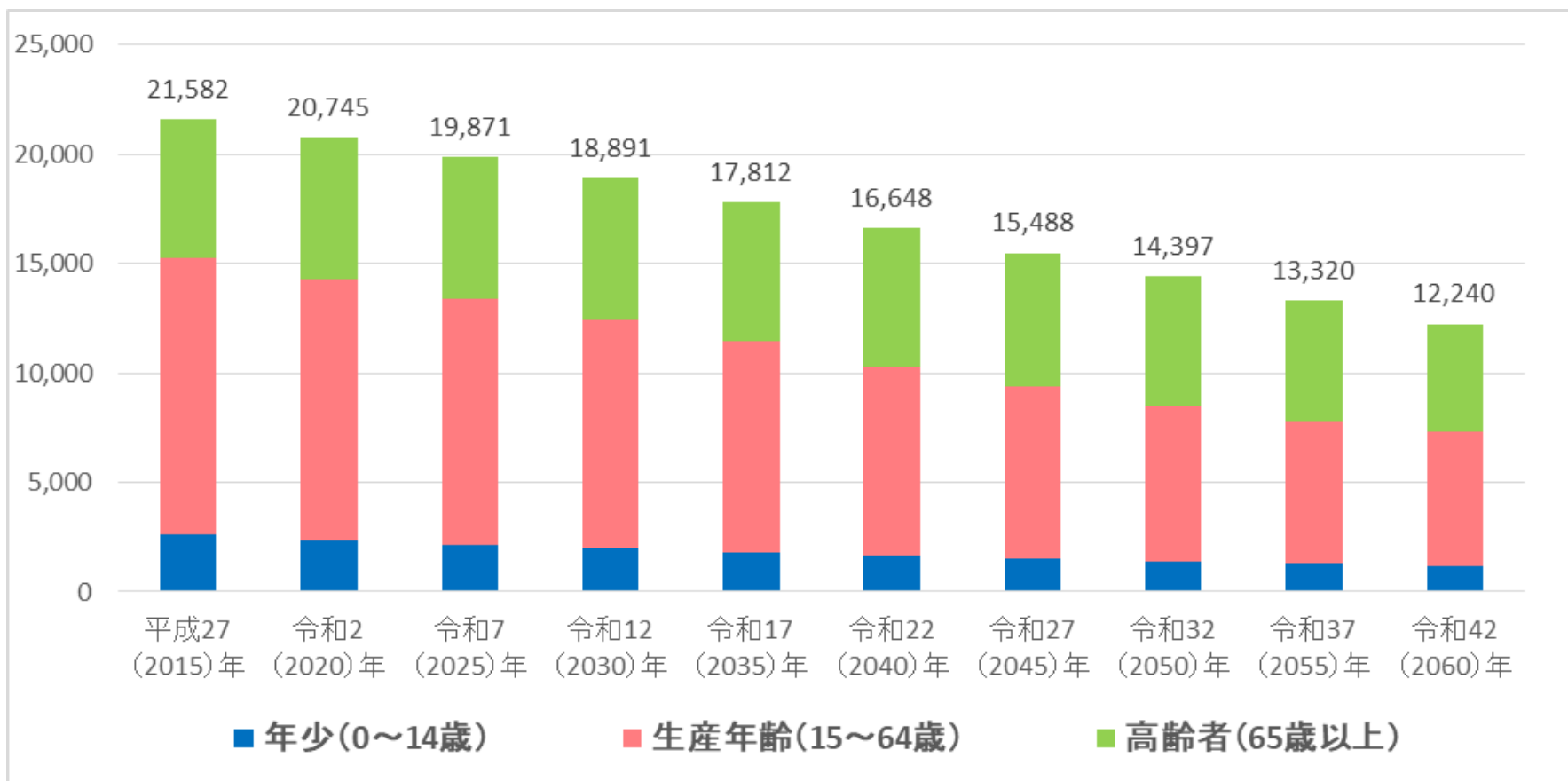


※ 各年9月末

2大沢野地域の状況

(1) 人口の推移

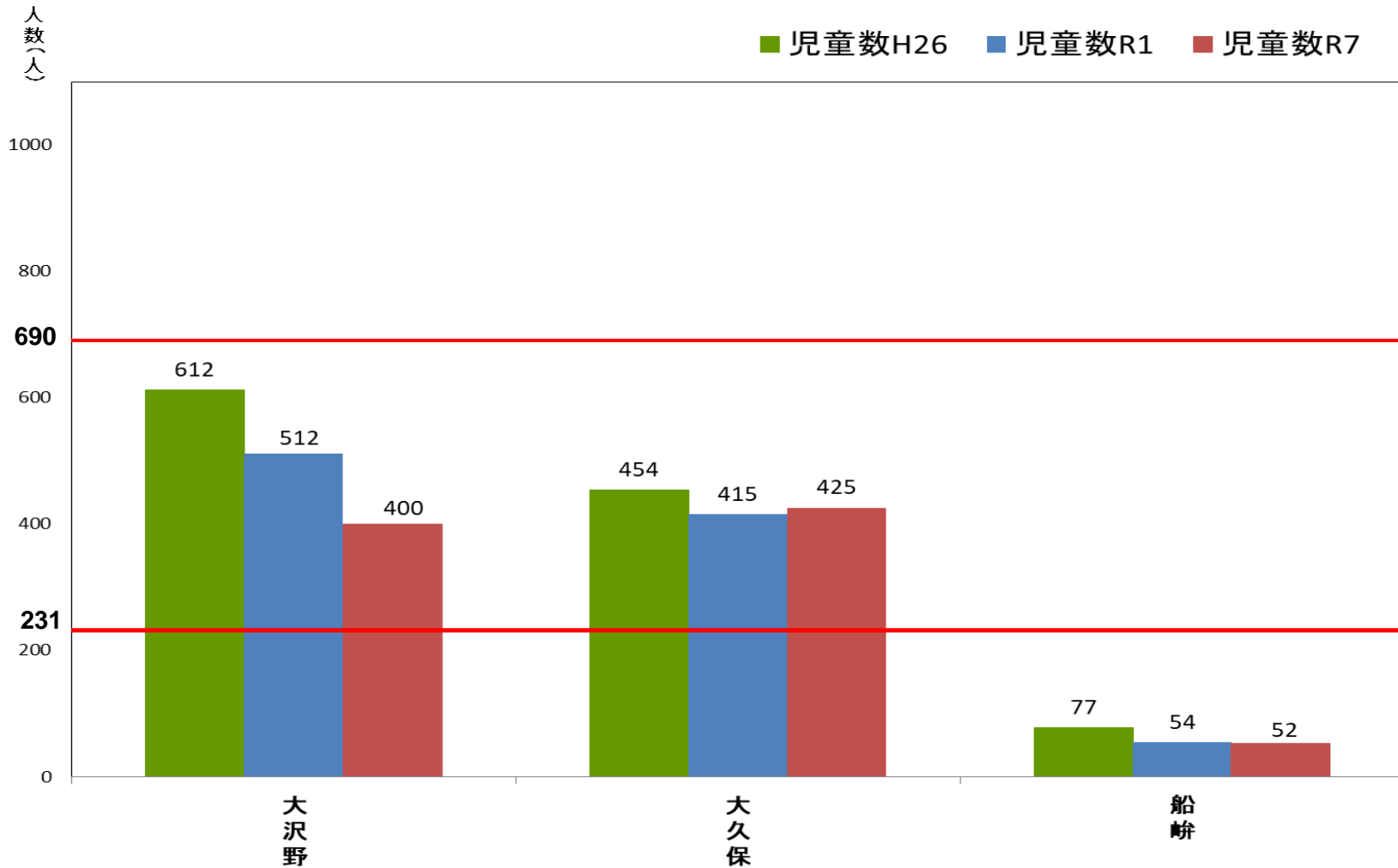
人口(人)



※「富山市公共施設マネジメント アクションプラン戦略編」の人口推計を基に作成

2大沢野地域の状況

(2) 児童生徒数の推移(見込み)

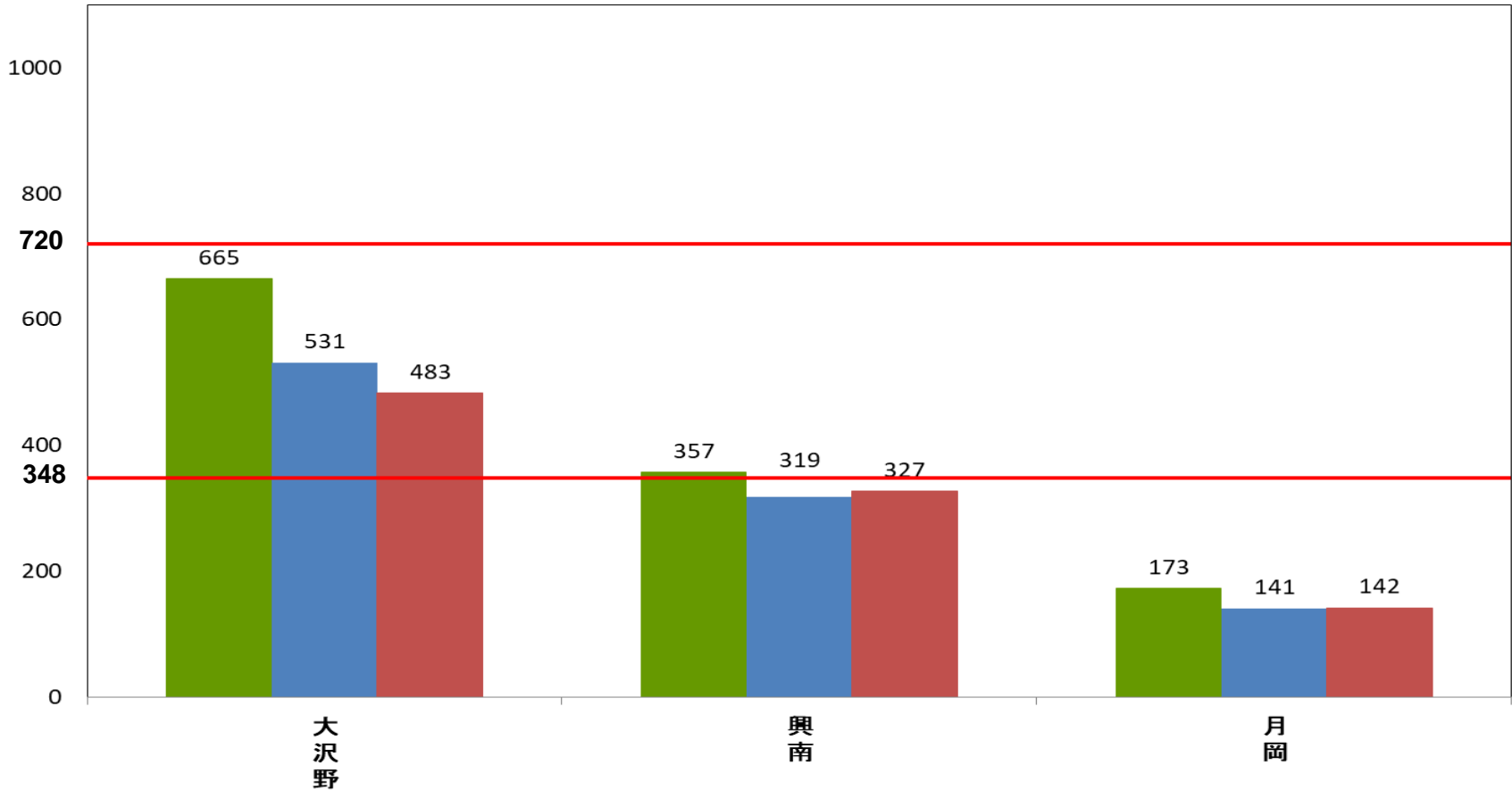


2大沢野地域の状況

(2) 児童生徒数の推移(見込み)

人数(人)

■ 生徒数H26 ■ 生徒数R1 ■ 生徒数R7



2 大沢野地域の状況

(3) 学校規模の推移(見込み)

児童数(人)



複式学級

小学校	年度	学級数	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
大沢野小	H 2 6	18	83	82	98	119	117	113	612
	R 1	17	77	77	106	86	83	83	512
	R 7	13	65	55	71	81	60	68	400
大久保小	H 2 6	13	76	71	77	76	75	79	454
	R 1	12	67	64	69	72	69	74	415
	R 7	13	76	64	70	68	72	75	425
船嶺小	H 2 6	6	11	14	9	13	16	14	77
	R 1	6	5	9	9	9	11	11	54
	R 7	5	10	4	10	12	7	9	52

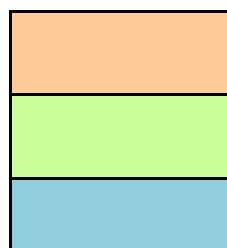
	大規模 (19学級以上)
	適正規模 (12~18学級)
	小規模 (11学級以下)

2 大沢野地域の状況

(3) 学校規模の推移(見込み)

生徒数(人)

中学校	年度	学級数	1年生	2年生	3年生	合計
大沢野中	H 2 6	18	223	214	228	665
	R 1	14	156	174	201	531
	R 7	14	147	151	185	483
興南中	H 2 6	11	135	122	100	357
	R 1	9	102	106	111	319
	R 7	10	107	109	111	327
月岡中	H 2 6	6	63	53	57	173
	R 1	5	49	51	41	141
	R 7	6	43	44	55	142



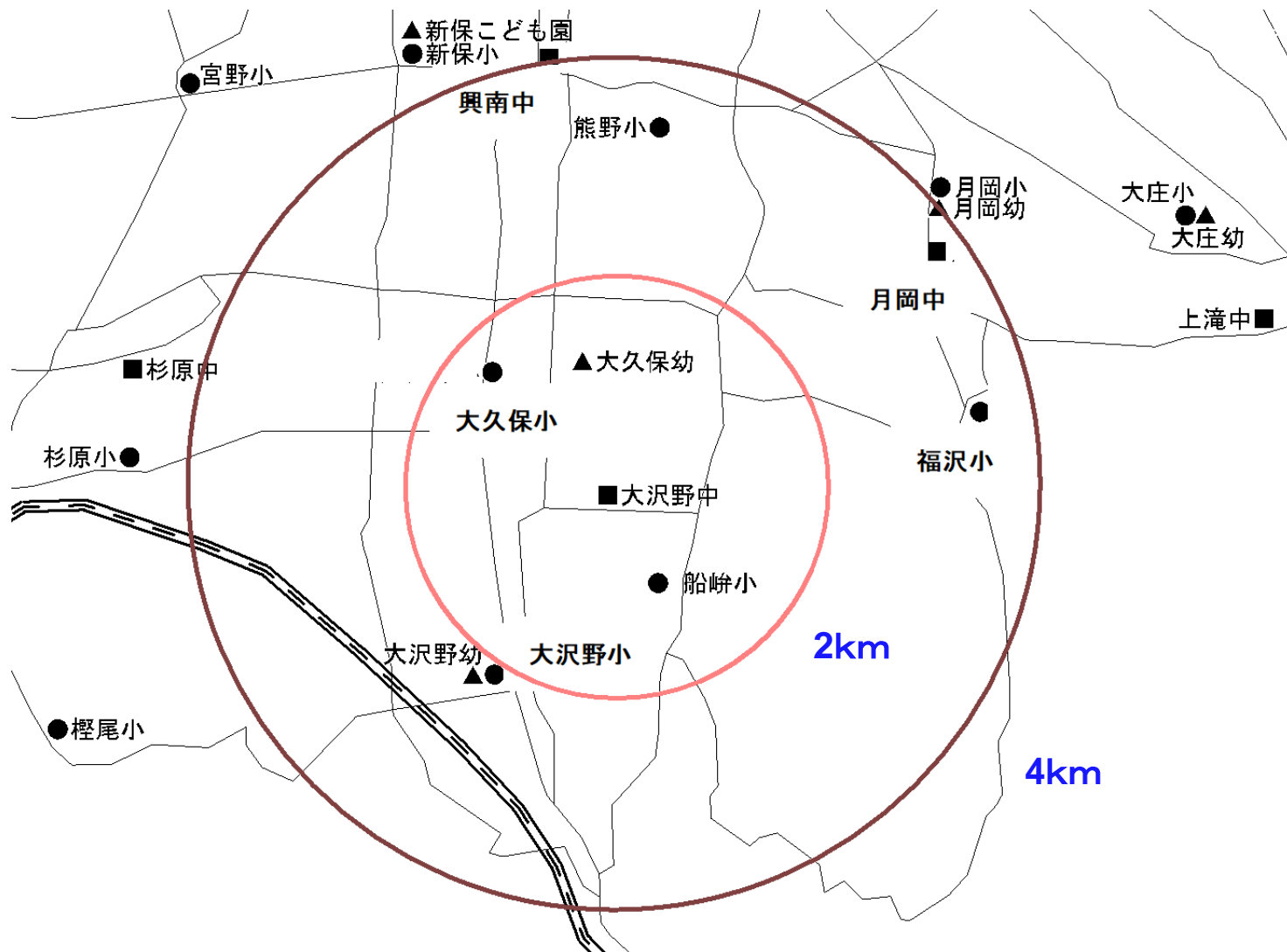
大規模 (19学級以上)

適正規模 (12~18学級)

小規模 (11学級以下)

2大沢野地域の状況

(4) 学校の位置



2大沢野地域の状況

(5) 学校の沿革(建物状況)

大沢野小

H12 校舎改築竣工

H21 大沢野小学校と小羽小学校が統合し、
大沢野小学校となる

大久保小

H7 校舎大規模改造竣工

H29~R1 耐震補強事業 実施設計

船嶼小

H3 校舎改築竣工

2大沢野地域の状況

(5) 学校の沿革(建物状況)

大沢野中学校

S58 大沢野中学校と大久保中学校が統合し、
大沢野中学校となる

3 小規模校における教育

(1) 小規模校のよさ

- 一人ひとりの子どもに対して、きめ細かな指導ができる。
- 学校行事で子どもたちの活躍の場が多い。
- 他学年や地域の方と交流活動がしやすく、親交を深められる

3 小規模校における教育

(2) 小規模校の課題

小・中学校共通

- クラス替えがないため、多様な考えに触れる機会や、社会性や規範意識を身につける機会が得られにくい。
- 体育のバスケットボール等の団体競技や音楽の合唱等が行いにくい。
- 経験年数、専門性、男女比など、教員をバランスよく配置できない。

3 小規模校における教育

(2) 小規模校の課題

小学校

- 複式学級となる場合には、教員が複数学年分の指導準備を行うこととなり、各学年へのきめ細かい指導が行いにくい。
- 教務主任が学級担任を兼務するなど、一人の教員にかかる負担が大きくなる。

中学校

- 9教科10科目すべての教員がそろわず、一部の教員が専門以外の教科の授業を行わなくてはならない。

※ 教科担当教員の配置 1校3学級→6人

⇒ 9教科10科目の対応が難しい

- 開設できる部活動の数に制約が生じる。

4 適正規模、適正配置に向けた取り組み

(1) 小規模校

- ① 学校の統合
- ② 小規模特認校制

(2) 大規模校

- ① 学校の分離
- ② 施設の増築

5 学校規模に起因する デメリット緩和に向けた手段

(1) 小規模校

- ① 教員の加配置や複数校兼務
- ② 小中一貫教育、義務教育学校
- ③ ICT機器の活用

(2) 大規模校

- ① 教員の加配置

おわりに



児童生徒数の減少に伴い、学校の統廃合は将来的に避けて通れない大きな課題です。

学校の標準規模化を図るなど、次代を担う子どもたちにとって、地域・保護者・教育委員会が一体となって、よりよい教育環境となるよう考えていく必要があります。

